

# 東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: [comm.tko@nskk.org](mailto:comm.tko@nskk.org)  
Phone: 03-3433-0987 Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1009号  
2006年10月15日発行  
日本聖公会東京教区  
港区芝公園3-6-18  
編集人 伊藤裕元

◇10月の代祷・信施奉献先  
▽浅草聖ヨハネ教会日曜給食活動のため▽教役者緊急援助資金のため▽月島聖ルカ保育園のため▽こどものためのミニストーリーの働きのため▽社会事業の日(特定25)

## ◆としえの平安

10月2日 矢野 忠雄(101) 聖三一  
10月2日 安藤 俊子(90) 聖バルナバ

## ◆教役者レクイエム

10月18日(水)10時半 主教座聖堂  
説教者 執事 神崎和子  
▽司祭 山田助次郎▽主教 松井米太郎▽司祭 河合良隆▽司祭 遠藤敏雄▽司祭 青木毅三

## 今週・来週の予定

10月15日~28日

- 15(日) 聖霊降臨後第19主日
- 16(月) 財政委員会
- 18(水) 教役者レクイエム (主教座)  
正義と平和・運営委員会  
聖職養成委員会
- 20(金) 山手G牧師協議会 (聖十字)  
常置委員会  
信徒講座:教会改革の足跡
- 21(土) 信徒講座:聖公会の信仰と生活 (神田)
- 22(日) 聖霊降臨後第20主日  
主教巡回 聖ルカ礼拝堂
- 24(火) 銀座朝祷会  
多摩G牧師協議会
- 27(金) 教役者会  
信仰と生活委員会

## ◇秋のバザー2

10月29日(数字は開催時間)  
三光(11半~15)

▽主教 八代斌助▽主教 高瀬恒徳▽司祭 牛島惣太郎▽司祭 副島虎十▽伝道師 長尾よつ▽伝道師 前田華江▽司祭 坂下内匠▽主教 山田 襄▽司祭 竹之内瑞男▽司祭 岡 精三

聖パウロ(12~15)  
目白(11~14)  
神田キリスト(11半~14)  
聖救主(10~14)  
聖三一(12~15)  
聖十字(11~14)  
聖マーガレット(12半~15半)  
聖マルチン(12~15)  
立教諸聖徒(11半~14半)  
聖パトリック(11~14)

子供の頃、真夜中に目が覚めることがよくあった。一緒に寝ていた両親の寝息が聞こえるから怖いと思うことはなかったが、天井に映る不思議な光の模様をじっと見つめ、家のあちこちから聞こえてくる物音に耳をそばだてて、そこから展開される空想の世界に遊びながら眠くなるのを待った。まだ「神様」という言葉を知らなかった年頃だったが、暗闇の中にただひとり起きていた体験は、日常とは何か違った特別な感覚として、今も鮮明に思い出すことができる。

この記憶と重なって、白い寝間着姿で手を組み、跪いて祈る少年サムエルの姿が描かれたカードのことも思い出す。日曜学校でサムエルの話を聞いて

——《恵みに生かされて》——

## サムエルのように

菊池 泰子

からは、夜中に神様から呼ばれることが私にも起きるのだろうか、カードを見ながら真剣に考えた。サムエルにはエリがいたから、「これが神様の声」と知ることができたけれど、私には一体誰がそのことを教えてくれるのだろうか? その時、「主よ、お話し下さい。僕は聞いておりません」と恐れずに返事ができるだろうか?

日々の暮らし、教会生活、社会の動きに心乱れ迷うことが多いこの頃、夜の静寂の中でじっと神様の声に耳を傾けるサムエルの姿が、遠い記憶の底から再び表れてくるようになった。サムエルのように応答する機会はない。これからやって来るのかもしれない。

(小金井聖公会信徒)

(この用紙は再生紙を使っています)

▽信仰と生活委員会ですすめている竹内謙太郎司祭による新シリーズ講座「教会改革の足跡」が今週20日(金)19時、教区会館でスタートする。既報。毎月第3金曜で10回講座。聴講は各回五百円。

▽同じく西原廉太司祭による講演会「聖公会の信仰と生活」が今週21日(土)14時、神田キリスト教会で。既報。中部教区所属で立教大学で教鞭をとりつつWCC中央委員・世界聖公会エキユメニカル関係常置委員として活躍している講師の、11月18日と2回にわたる講座。来聴歓迎、各五百円。

▽東京諸聖徒教会では、メリーランド教区「王なるキリス

ト教会」からキリス・リー司祭夫妻と信徒3人を迎え、10月25日(11月2日、交流プログラムで過ごす。一九八六年から交流が始まり青年を中心に6回、訪問する機会が与えられ、来訪を迎えるのは今回で3回目。創立一二五周年記念礼拝(10月29日)を共にし、また諸プログラムを通して「キリストにある交わり」を深め合う機会となる。

▽聖堂創立50周年を迎えた聖オルバン教会は10月29日(日)10時から記念礼拝を捧げる。説教は植田仁太郎主教。初代牧師ロバート・M・スミス司祭もアメリカから子息に伴われて参列。記念行事として14時から、プリマス・コングリゲーション教会(米国シアトル)のオルガニス

ト、ダグラス・クリーヴランドさんによるオルガン演奏会を。入場料二千五百円。照会電話03(3431)8534。

▽五本木九条の会主催(憲法を学ぶ)第9回講演会「子どもたちへ語り継ごう!平和憲法」が10月25日(水)18時半から聖パウロ教会で開かれる。講師西原美香子さんは中部教区岡谷聖バルナバ教会信徒で、「平和を実現するキリスト者ネット」メンバー。子どもたちの声やエピソードを交えて平和への思いが語られる。照会は会場教会宛、03(3710)6031。

▽教区関連墓地礼拝は11月1日(諸聖徒日・水)と2日に諸所でささげられる。次号で詳細を掲載予定。

## 【学びと働きから】23

### 世界の聖公会の今(2)

話題が再び、同性愛者をどう受け入れるかということに戻ってしましますが、今、そのことで世界の聖公会が揺れているというのが現状ですので、この話題をお許し下さい。個人として教会として多様な立場がありうると思います。

世界の多くの社会で、同性愛は、少くとも病気や欠陥として治療すべき対象とはなっていないし、その性への指向性そのものが不道徳であるとも考えられていません。性にまつわる不道徳な行動は、同性愛者間にも同性愛者間にもあります。同

様に、性に対する誠実で忠実な在り方は、同性愛者間にも同性愛者間にもあるということが認められています。

このような考え方は認められない、という社会も人間も、そして教会もあります。アフリカのある社会では、同性愛は犯罪とされ、処罰の対象でさえあります。そういう社会では、当然、同性愛者であると公言する人を、一般社会であれ、教会であれ、責任ある立場に任じることはできないでしょう。

ところで同性愛者であることみずから公言するということは、くり返しますが、自分は見境もなく同性愛的性行動をしますという宣言ではなくて、

自分の人格のアイデンティティー(自分であることの本質)の一部として、自分は同性愛(指向)者であるから、そういう人間として認めて欲しい、と言っているだけです。

このような多様な見方がされている世界に散らばる聖公会が、たったひとつの見方でまとまるということは不可能です。違った成り立ちや違った価値観を持つ異なった社会で生きている教会が、そのコンテキストで誠実に生きてゆくことを認め合わない限り、これまで培ってきた聖公会的「多様性の中の一致」は最早、そのままでは守れないかもしれません。

主教 植田仁太郎